

大阪府養護教育研究会会報 2003年 9月8日

府養研ニュース 2003年9月号



このニュースはEメールで配信されています。府養研ニュースは各種案内等の事務連絡と一緒に、毎月第1月曜日にEメールで配布されています。第1月曜が祝日であれば火曜日発行になります。来月10月号は、10月6日発行です。一部メール網がまだ整備中もしくは検討中の市町村は、郵送または遞送されています。

事務局 堺市立茶山台小学校
会長 本郷 くみ
〒590-0115 堺市茶山台2-5-1
大阪府養護教育研究会広報部
平成15年9月8日発行
Mail 本部役員宛



ホームページを試験開設しております。



今回送付の文書の一部(案内、報告など)はホームページからも見ることができます。
<http://www012.upp.so-net.ne.jp/tamtam/>

これ以後のリンクは、PDFファイルでひらきますです。
このページに戻るにはブラウザの戻るボタンをお使いください

研修会・講座の報告	研修会のご案内(案内添付)
ケアマネジメント夏期研修会に参加して 高槻市立高槻小学校 小泉麻理子	養護教育におけるコンピューター活用の実際 10月21日(火)14:00-17:00 茨木養護学校
LD教育プロジェクト講演会(8月4日)報告	LD研究連載2
ICT活用連続講座第1分科会 藤井	養護学級におけるLDを疑われる児童への指導 中河内LD研 井川 百々代 (Web非公開、各市町村担当者にお尋ねください)
ICT活用連続講座第2分科会 山本	
ICT活用連続講座第3分科会 岡崎・工藤	

紹介やお知らせなど

研究会紹介	今後の研修会のお知らせ
各地でLD研究会発足(北河内・和泉) 第6回大阪自閉症教育研究会 Webページ紹介	テーマ別研修会予告 行動にさまざまな問題を示す子の理解と援助 2003年12月25日 八尾市文化会館プリズムホール 午後2時から
各支部からの報告	ICT活用プロジェクト第3研究会予告 「マウス改造講座」 2003年11月28日
堺市合同宿泊学習	

ケアマネジメント夏期研修会に参加して

高槻市立高槻小学校 小泉麻理子

研修会では、障害者ケアマネジメントの目的や理論にとどまらず、ロールプレイやバズセッション、グループ発表を通して、面接手法やケア計画作成などの作業の実際も学ぶことができ、ケアマネジメントについて理解を深めることができた、充実した四日間でした。

講義の中では、障害者の方々から直接お話を伺うことができ、大変貴重な機会でした。その中で印象的だったのが、障害者ケアマネジメントの視点について、どの方も話の中で「一人の障害者が何を求めているのか、きちんと把握することがとても大切だ」と強調し、切に願っておられていた点です。このことは、ケアマネジメントのプロセスで最も基礎となる重要な視点だとテキストにも資料にも書いてあります。私も話を聞きながら当然のことと納得していたつもりでした。

しかし、ケアマネジメント従事者が障害者からニーズを聞き取る、「アセスメント」を想定したロールプレイで、実際にケアマネジメント従事者役を体験すると、想像していた以上に、面接の中で利用者のニーズを引き出す作業に難しさを覚えました。もちろん、作業には回数を重ねますし、経験や技術もあると思いますが、障害者の立場でニーズを汲み取る作業はなかなかできないものです。《障害者のニーズは実現されやすそうとされにくい。》だからこそ、講義の中で訴えられていたのだと、後になって気づいたのと同時に、話を聞いて実際に体験していなければ、障害者ケアマネジメントの視点をここまで深く考えることはできなかったと思います。

今後は、この新たな視点を大切に、子どもたちに関わっていきたいと思います。

また、将来的には学校でも、障害児にどのような社会資源があるのか情報提供をする場のひとつに進化していく上で、改めて、障害者ケアマネジメントを学ぶ重要性を感じました。



LD教育プロジェクト講演会（8月4日）の報告

夏休み中にもかかわらず300名以上の参加がありました。簡単に4分科会と講演会について報告します。

分科会1「LD児・AD/HID児への理解を深める - LD擬似体験プログラムを通して - 」

堺市立向丘小学校 教諭 米田和子

LD 擬似体験プログラムは、文字や絵、文章をうまく読み取れない体験、指示をうまく聞き取れない体験、迷路を使った不器用さの体験などから、LD の心理的擬似体験し、それについて小グループで意見を出し合う、という内容だった。LD についての知識があまりない人の参加が多かったからか、初めは話し合いや意見交換に活気がないようにも感じた。だが、会が進行するにつれて意見も出て来るようになり、また、自分自身が疑似体験することによって理解を深めることができたと思う。



分科会2「読み書きの指導」 高槻市立芥川小学校 教諭 植村美栄子

「文字を読めて書ける」ためには、聴覚、音声、視覚、運動が関わっているが、今回は聴覚と視覚を中心に説明された。

視覚系の問題が大きいと、運筆練習がうまくできなかつたり、文字を書くと線と線が重なり合うところが重ならなかつたり、はねるところが左右逆になつたりする。これらは読み書きの入門期に多いことだが、それがいつまでも残っていないかどうか、教育現場で見極めることが大切である。文字の習得に向けての指導基礎項目としては、眼球運動に関する学習、目と手の協応学習、形態知覚の学習、視覚記憶の学習、視覚の概念化の学習があげられる。運筆練習や点つなぎが苦手な子に、単に何回も書く練習をさせてもうまくいかない。そのような子には何が課題なのか逆のぼり、必要な個別指導をすることが大切である。

聴覚系が弱いと、耳から入ってくる音の判別や知覚に障害があるため、語頭・語尾の聞き間違い、文字を見ても発音できずに読めない、黙読のほうが理解できるということがあがる。また、聴覚弁別、聴覚記憶が弱いと、表記に似た音の混同や特殊音節の書き間違いが見られる。これらは不注意優勢型の子に多いと言われる。聴覚的な不注意が原因となり、

集団の中で言われたことを聞き落とす、音源がわからず聞き逃す、早口で言われるとわからないということが見られる。聴覚系に弱さをもつ児童への指導基礎項目として、ことばのリハーサルがある。普通は頭の中でもう一回ことばを言っているが、メタ認知の弱さをもっていると、言い直すことをしない。3単語ずつのしりとりをするなどして、記憶とりハーサルをゲーム化させる。他に、聴覚記憶力、音韻操作能力、音の弁別力、概念形成、聴覚的注意集中・注意選択・注意の焦点化を高める指導を行う。

「通常の学級での支援」

高槻市立芥川小学校 教諭 大石 博子

クラスに学びにくさをもっている子がいるのではないかとということを念頭において、通常学級の中で工夫したらできることについて述べられた。支援や工夫のポイントは、「よさを認める」、「強さを学習場面で生かす」、「苦手なことで追い詰めない」ことである。悪いところばかりでなくよいところをさがしてあげることが大切である。追い詰めると逃げの姿勢を作り、悪循環になる。授業では、途中で休憩を入れながら集中時間をのばしていく。時計を見ながら目標時間を決めて子どもにゴールをわかりやすくするとよい。座席の位置は、子どもの意見も聞き、声かけのしやすい前の席にする。その子にだけわかる声かけや合図を決めておく。子どもたちへの指示は、言語と文字を使い、一度に出す指示は少なめにする。低学年は、指示を同じように声に出して言わせるとよい。板書は、大きめの文字で、書く場所に目印の磁石をつけたり、書く順番を書いて見通しを持たせる。みんなが書き終わったところを消していくとゴールが見えやすくなる。発表で、答えられない時は、パスのルールを使えるようにする。声が小さい時は教師が代弁をして、さりげなく通過する。プリント類は子どもの希望を聞いて、拡大コピーしたものを用意する。文を書くプリントは横書き、縦書き、罫線、マス目など数種類用意して、子どもが書きやすいものを自分で選択できるようにする。これらの支援は、特別にするのではなく、クラスのみならずも使えるようにすることが大切である。

分科会3「子どものソーシャルスキルのあり方をさぐる」

堺市立日置荘小学校 教諭 上嶋 恵

堺市立五箇荘東小学校 教諭 苫広みさき

LD周辺の子供達達は、読み書きの困難のほかに社会的なスキルの困難もかかえている。通級教室のプログラムやゲームランドの取り組みの中で、スキルを伸ばしていく子供の話の話を聞きました。人とよくしゃべるけれども本当に人を受け入れているかということ、教室の床に先生と一緒に寝るといことがリラックしてできず、すぐ立とうとするなどは、人との関係にガードをもっているということだというような興味深い話もありました。

会場からは、眼球コントロールについての質問が出て、一点凝視や追視の訓練方法を具体的に教えてもらいました。また、聴覚のトレーニングは音楽を使ってするのが有効だということでした。

通常学級の先生との連携についての質問も出され、特別支援のネタをたくさん持っていることで重宝される教材ステーションになることが大事だと思いました。

分科会4 「行動の問題 - 中学校での気づき - 」

高槻市立第9中学校 教諭 石井幸子

高槻市立如是中学校 教諭 中村敏子

はじめに、中村先生から中学生の問題行動やそういった行動を起こす中学生の状況をどう見るかというテーマで報告がありました。LDやADHD等の障害児の多くが、通常学級に在籍しているため、通常学級の教師に子どもの状況を知る力が必要になっていることや、指導のポイントが報告されました。また、そういった子ども達のために特別支援教室を立ち上げる必要があるのではないかという提案がありました。続いて、石井先生から、指導上のポイントについて報告がありました。中学生以上の子ども達には、「今もっている力で社会に出たら何ができるか」というトップダウンの考え方が必要になってくること、そのために教師も含めた周囲への障害の理解をすすめる必要性や本人の障害受容について話されました。また、実際の指導について具体的に報告されました。



講演会「算数の指導」 筑波大学助教授・LD学会理事 熊谷 恵子先生

数学を遂行するときに使われる能力には、多くのものが関係しているが、根本的に言語とはきってもきれない関係にある。数詞（言語的・聴覚的）、数字（言語的・視覚的）、具体物（非言語・操作的・視覚的）の3つの関係が作られることが数概念を形成する基礎になる。どのような認知能力の偏りが顕著かということで、数詞・数字・具体物のそれぞれの獲得、あるいはそれぞれとの関係の作られ方に特徴が出てくることになる。

認知能力によって学習スタイルを考える。WISCの結果から、動作性IQ > 言語性IQなら、視覚的な刺激を処理することが強いので言語による指導よりも図や絵による指導がよい。言語性IQ > 動作性IQなら、言葉による指導がよい。また、K-ABCの結果から継次処理、同時処理がわかる。継次処理優位なら、段階的な教え方、部分から全体、順序性の重視、聴覚の手がかり、言語的手がかりによる指導がよい。同時処理優位なら、全体をふまえた教え方、全体から部分、関連性の重視、視覚の手がかり、運動の手がかりによる指導がよい。数学学習には継次処理も同時処理もすべてが必要だが、学習の入り方・

指導の入り方に注意したい。

例えば、九九の習得のさせ方では、九九を唱え、それを暗記させることに重点を置く方法（継次処理優位）と、九九の表を活用することで空間の中での位置関係から式を暗記するというように重点を置く方法（同時処理優位）がある。計算式の指導では、手続きの言語化、使いやすい規則、視覚的手がかりなどをわかりやすく提示する。測定や定規の使い方の指導は、順序を細かいステップで区切り言語化する方法（継次処理優位）と、始めと終わりの状態を示しその間の手順をなるべく少なくして図で表す方法（同時処理優位）がある。文章題や推論は、継次処理型学習者では演繹的推理、同時処理型学習者では帰納的推理により物事の関連性を把握させる。最終的にはどちらの推論も可能とならなければならないが、認知機能に偏りがある子には、それぞれ得意な推論の方向性があるので、それによってまず物事の関連性をつかませることが必要である。空間的な関係については、継次処理型学習者では次元を落とした方がわかりやすい。例えば時計の学習では円形で表される時計を真っすぐの帯状にして、これが丸くなると時計になると説明する。同時処理型学習者では円形のまま扇形に区切って説明する。カレンダーは継次処理型学習者では1日から順に縦に並んでいるタイプ（1次元）がわかりやすく、同時処理型学習者では一週間ずつ横に並び縦が曜日でそろっているタイプ（2次元）がわかりやすい。板書で使う矢印は、継次処理型学習者は操作の方法を順番に1方向に示すものがわかりやすく、同時処理型学習者は矢印の方向性に意味を持たせるものがわかりやすい。また絵を使用する場合は、継次処理型学習者は直線的な配置（例 $3 + 2$: 蝶が3匹と2匹真っすぐに並んでいる絵）同時処理型学習者は意味がわかる絵（花の周りに3匹の蝶がいるところに2匹飛んできた絵）がよい。

以上のように、算数・数学の学習指導も長所や高い能力を使いながら、概念化や計算スキル、操作スキルを身につけさせるものである。このように、どんな教材を使ったらよいのかだけでなく、どういう手順で教材を提示するか、指導の展開の仕方についても考えなければならない。しかし、動機付けだけは高めることは指導の鉄則である。ご褒美のシール等だけでなく、高い能力をうまく使うことによって、本人が短期間で高い能力をつけることが動機付けになる。



ICT 活用連続講座 第一分科会 参加報告

堺市立福泉中央小学校 藤井澄江

定員40名とのことでしたから、難しかったら途中でリタイアしようと軽い気持ちで申し込みをしたのですが、事前に講師先生からファックスやメールでご連絡をいただき、参加者が7名（実際は9名でしたが）ということがわかり、抜けられない状況であることが判明しました。ですので、片道2時間をかけて重いパソコン持参で、落ちこぼれながらもなんとか3日間通うことができたのかもしれない。



第一日（8/13）

参加者一人一人が自己紹介

- ・担当している子どもたちの様子、そしてこの講座で何をしたいと考えているのかを発表
- ・バラエティに富んだ子どもたちの様子やそれに対する手立てについて、アドバイスをいただきました。

パソコンに「ユーザー補助」という機能があって、マウスやキーボードでの入力の方法についての設定を細かく変更できることを教えていただきました。

マウスの改造（実技）

障害のある子どもたちが触るだけで反応するスイッチを接続できるように、市販のマウスにドリルで穴を開けたり、線をハンダ付けしたりして接続口を取り付ける作業でした。私は、細かい作業に悪戦苦闘で、ほとんど手伝っていただいて完成しました。



第2日(8/14)

何をしたいのかを発表

昨日のアドバイスに従って、2学期からの授業に活かせる「何か」を一人一人作成しましょうということになり、その構想を発表しあいました。コミュニケーションカードを作る人、買い物学習用の教材作りをする人、日課提示用のプレゼンテーション作りをする人など、それぞれの課題を出しました。私は、児童がワンプッシュで場面展開できる絵本を作ることにしました。

教材の作成

スキャナを使って既成の絵本「バナナです」を取り込み、パワーポイントを使ってスライドショーにしました。オートシェイプの吹き出しでセリフを挿入する途中で時間切れになりました。

第3日(8/15)

昨日の制作の結果・途中経過を提示し、2学期の学習にどう活かそうとするのか発表

パワーポイントを効果的に使用してとても上手に仕上げた方や、ボードメーカーでのカード作成が成功した方がありましたが、絵本を作成した私を含めて4名は、音声を入れることが難しいこともあり、不十分な出来上がりでした。でも、その気になればこういう風に教材作成ができるんだということは学習しました。私が必要としているのは、ワンプッシュでページをめくらせることではなくて、児童が自分でマウスを動かして選択肢を選ぶことなのだと思いき、既成の教材ソフトの中でそれに近いマウスの動きを作れるものがあることを教えていただきました。

三日間を通して学んだこと、感じたこと

「ユーザー補助」で、パソコン自体が障害の状況にかなりの対応をしてくれること。

筋ジスの児童が将来必要になるスイッチ類にいろんな種類があること。

堪能な方が作成してくださった「教材集」があって、すぐにも使えそうなこと。(うれしい!)

パワーポイントの使い方をもっと学べたらよかった。でも、何をしたいのか、児童に何をさせたいのかをしっかりとつかんでおかないと駄目なんだという事も分かりました。「発想」「センス」を研ぐことはかなり難しいですね。ご指導いただいた先生方本当にありがとうございました。



ICT活用連続講座 - 2に参加して

羽曳野市立西浦東小学校 山本 伊津子

府養研ニュースでこの連続講座を知り、2学期にパソコンを活用した市の研究授業が当たってしまった私は「何か発見することができるのでは」と思い、藁をもすがる気持ちで参加しました。

1日目は茨木養護学校の大峠先生と情報教育研究部の大杉先生から「自立活動」が新設された課程や意味、特別支援教育の在り方（最終報告）についてお話して下さり、今の養護学校や養護学級で求められていることが分かりました。またロールプレイでは、少し緊張もしましたが、知らない先生方の中で気持ちもほぐれ、貴重な経験もできました。

2日目はパソコンソフト

「ボードメーカー」を使って、コミュニティカードの制作を体験しました。制作方法は、パソコンで必要な絵のカードを取り込み、それをプリントして、ラミネーターをしてから切り取り、最後にマジックテープを付けると出来あがりです。実習ではそれぞれの先生方のアイデアと、子ども達



への想いがいっぱいの素敵なカードがたくさん出来ました。出来上がったカードを同じ講座の先生方同士で交換するなど、実習は大変もり上がることができました。さらに、大杉先生の奥様が手作りのカードフォルダまで頂いて、感激でした。出席されていた 養護学校の先生方からは『学校には「ボードメーカー」があるので、養護学校を利用してください。』という暖かいお言葉も頂きました。日頃から自閉症児とのコミュニケーションでお困りの先生は、一度利用されてはいかがでしょうか？

3日目はK - A B Cの特徴や検査方法など、実物を見ながら解説して頂きました。K - A B Cについて、言葉は聞いたことはあったのですが、実際体験して大変よくわかりました。その後、特殊教育用ソフトウェアの紹介などがありました。午後からは公開discussion で、いろいろな立場からのお話が聞けて参考になりました。

今回の講座は、お盆という3日間でしたが、パソコンやプリンターなどをたくさん用意して頂き、準備はたいへんだったと思います。講師の先生には手をとり足をとりのご指導を受け、研究会の先生方にたいへん感謝しています。ありがとうございました。この講座の成果を生かして、2学期から活動や研究授業も頑張ろうと意欲いっぱいです。

最後に、私ごとですが、「ひかり教室」という養護支援サイトを開設していますので、一度ご覧頂き、ご意見ご感想などお聞かせ下さい。我が校のホームページからもリンクしています。 サイトアドレス <http://www2r.biglobe.ne.jp/~comet-i/>

ICT 活用連続講座 3「個々に対応する映像教材作りを」 講師 廣瀬 正彦 氏
(こ・めでいあセンター)

～デジタルビデオ、デジタルカメラの基本的カメラワークから、PC への取り込み、
編集、加工、オーサリング、製品化まで～ に参加して。

高槻市立第 1 中学校 岡崎あかね



講座 3 に参加して、今まで養護学校の先生とともにカリキュラムを作る機会がなかなか無かったので、今回の講座は、とても新鮮でした。

1 日目：主題の構想を練り、取材することの意味。

まず最初にグループで話し合い、テーマを決め、起承転結を考えに入れてストーリーを決めることから始まりました。

次に実際にデジタルビデオを操作して編集するために、編集ソフトをインストールして動作確認をしました。

ここで制作のねらいをはっきりとし、何を伝えたいのか構想を練るために、ペンと紙で 4 コマ絵コンテを描きました。

この場面で構想をしっかり練ることは、デジタルビデオを使ってカメラワークを定めるときにも、とても必要なものであるということを撮影しながら実感しました。何を写すか、どう写すか、カメラア

ングルは、など最初の構想を常にイメージしながらグループで撮影しあいました。

2 日目：編集

さてデジタルビデオの映像をパソコンで取り込み（キャプチャー）、編集する作業に入りました。トータルで 1 分間のビデオにまとめるので、編集ソフトを使って必要な所、不必要な所を取捨選択し、映像をひとつのエッセンスにまとめる作業です。文字や効果音を取り入れ編集していきます。ここでも、最初の構想をしっかりイメージしながら、効果音や映像におぼれず的確に表現することが大切でした。そしていよいよ CD-RW で VCD 形式に書き込み、発表の準備ができました。



3日目：品評会

参加した者がそれぞれ自分の作品をプレゼンしながら交流し、講師の廣瀬氏が、それぞれにコメントをしながら、品評会は進んでいきました。

同じテーマでもカメラワークや編集の仕方によって、表現の仕方も変化し、情報の伝え方も違ってくるのが、印象的でした。

午後からは、公開ディスカッションでした。テーマは「ICT活用の課題と今後」。それぞれの参加者が一人ずつ自己紹介しながら、普段考えていることや、悩みや希望などをフリートーキングしあい、時間がまたたくまに過ぎ去りました。

普段の授業実践でぶつかる悩みや疑問を相談するのにも遠いと感じていた、心の垣根を少しでも崩すことができ、崩し方が見え、本当に充実した3日間でした。

この3日間をセットするために、講師の先生方を初め、皆様本当にありがとうございました。力が湧いてくる研修でした。（2003.8.15）



ICT講座 - 3 「個々に対応する映像教材作りを」

八尾養護学校 工藤

廣瀬正彦先生のお手伝い兼、研修の受講者として参加させていただきました。パソコンとカメラ撮りはそこそこ慣れているつもりでしたが、デジタルビデオデータを扱ったことがわずかしかなく、ユーリードの「ビデオスタジオ6」を全く知らなかったのが廣瀬先生に聞いたり、木原先生に聞いたりして、かえってご迷惑を掛けてしまいました。

講座はとても楽しく面白く、集中できて内容の濃い3日間でした。初日のカメラワークの説明、長年の蓄積のノウハウを惜しげもなく、わかりやすく教えていただきました。絵コンテの重要性も教えていただきました。これが午後、撮影開始した時、映像作品作りにもっとも大切だとわかりました。みんなであつの絵コンテを見ながら、「ああだった、こうの方がよい」と修整を加えていき、カメラマンも、演技者も皆、絵コンテを再確認してから行動していくのですから。

午後の撮影では5名のグループで私は監督をさせていただきました。我々は一ツのテーマで「信号機の色を見て進む止まるを学習する」というものでした。4人は女優でアシスタントディレクター(AD)、迫真の演技が良かったです。ADとしても、この赤信号は2分です、5秒前から撮りましょうと、優秀でした。絵コンテは1人が作成していて、カメラは3人ほどで交代して撮りました。カメラになった人はみんなそれぞれ「脇を締めてとか」教えられたカメラワークを思い出しながら撮影していました。信号機の大きさは肉眼で見るよりテレビ画面で見るときはあまりに小さく見えるので、ズームアップしてもらうことにしました。その時のカメラマンは「ズームより足で寄った方がよいと言われました。」と言われるのですが、道の真ん中までカメラをのぞきながら歩くわけにもいかないので、セオリーをはずしてズームをしてもらうことにしました。どのカメラマンもズームを使用するのは難しかったようです。これは後日の品評会で廣瀬先生はカットでつなぐのが普通ですがこの場合はズームの方が良かったと言って下さいました。

2日目はデジタルデータのパソコンへの取り込み、「ビデオスタジオ6」を用いての編集作業でした。これは省略しますが、パソコンの動作とか能力について限界を感じました。画像がかくかくと、引っかけり、音声がぶつぶつと、途切れてどのパソコンもスムーズではないのです。これはすぐにメモリが足りないのだと思いました。どれも128MB位しかないのです。これでは足りません。Windows 98・SE・Meなどは256MB以上にして、XPは512MB以上にするのが良いと思います。もちろんワープロ、表計算など普通に使っているものは標準で何の問題もありませんが、映像を扱うと、途端に足りなくなるのです。使っているハードが皆ノートパソコンであるからでもあるのです。

デスクトップ型に比べると同じ速さ（CPU）であってもノート型が遅くなるのです。それはグラフィックボード（ビデオボード）の違いです。デスクトップは、より早いグラフィックボードに替えたり、専用メモリを多くしたり出来ますが、ノートはメインボード内蔵であり、メモリも本体メモリを流用しているのです、どうしても遅くなってしまいます。

3日目は品評会で、各グループや個人で内容を考案し撮影して編集したものの発表です。みんなそれぞれ、子供のことを視点に入れた内容となっていました。グループで一つのコンテに基づき撮影した映像でも、編集段階で個人によって、タイトルの付け方、説明文字の挿入、カットつなぎの効果の違いにより、ずいぶん違った印象の作品になっていました。それぞれの作品について廣瀬先生が一つ一ついいに評価を与えて下さいました。撮影の仕方により、またできあがった映像の効果により、教育的効果が違ってくるといってお話をして下さいました。初日の撮影方法と重なるのですが、カメラを出来るだけ固定してゆらゆらと揺れないように、カメラを傾けて撮らないように、「信号」のグループがこうなっていました。）パンニングは出来るだけゆっくりとするなど、基本的なことをそれぞれの作品を評価しながら教えて下さいました。ズームについては出来るだけ使わない方がいいのですが、「信号」のテーマについては、子どもへの教育効果を考えると、あの信号は赤だとかこの信号が青になるのを待つということで、カットつなぎより連続性のあるズームの使用の方が良かったと言って下さいました。



研究会紹介

各地でLD研究会発足

北河内LD研究会発足

北河内養護教育研究会の特別プロジェクトとして、今年度から北河内LD研究会が発足しました。北河内地区におけるLDおよび周辺の子どもに対する具体的な支援体制や方法の確立を目指し、研修、研究活動を推進していく予定です。

8月20日には第一回目の研修会が開催されました。テーマは、

「LD理解の基礎の基礎～疑似体験プログラムにチャレンジしよう～」

視る・聴く・読む・話す・書く・作業の6つの体験を通して、LDの子供たちが毎回教室の中で経験していると思われる学習上のつまずきや困難、そしてそれに伴って起こるフラストレーション、怒り、緊張などの様々な感情を疑似的に体験し、子供の感じていることを内側から理解しました。

連絡先は下記まで

事務局 大東市深野北1-15-1
深野中学校 あおぞら学級内
072-879-4891
FAX 072-879-4892
Eメール pearl@cat.email.ne.jp (木原)
木原 弘 (大東市立深野中学校)



和泉LD/ADHD研究会発足

9月1日、和泉LD/ADHD研究会が設立されました。記念講演に大阪医科大学LDセンターの竹田契一先生をお迎えして、150名の参加を得、盛会でした。詳しいお知らせと画像は、10月号でお知らせします。

第6回大阪自閉症教育研究会

上記研究会が9月6日(土)に行なわれました。参加は府下15校から22名でした。府下全域からの参加の学校数が増えました。内容についてのまとめをしましたのでお知らせします。高機能自閉症の理解と対応について、研究会の場でも出された意見などを載せています。一度目を通してみてください。なお、「まとめ」はわたくしのホームページを開いていただいて、そのなかの「お知らせ」にのせています。最初の表紙からも行くことができます。ホームページのアドレスは下記です。

金井孝明

E-Mail DQG05305@nifty.ne.jp

<http://homepage1.nifty.com/kanaipage/>

Tel.0724-22-8048 (自宅)

Web ページ紹介

入力機器やソフトについて

茨木養護学校の山本さんが、入力機器やソフトについて、この1年ほどの間に調べられたことや、作成されたソフト・スイッチなどのことを、まとめてWebページされました。興味がおありの方は一度ご覧ください。

<http://open.prop.or.jp/at/index.html>

各支部からの投稿

合同宿泊学習

- 堺市中学校養護学級の宿泊学習 -

堺市養護教育研究協議会

2003年8月11日(月)～8月13日(水) 於：神戸しあわせの村

堺市内の中学校養護学級の生徒130名、付き添い教師、教師107名が2グループに分かれて、上記の日程で一泊二日の宿泊学習を行いました。それぞれの学校でテーマ曲の練習や×クイズのうちに思い思いの絵を描き、楽しみに当日を迎えました。アスレチック、キャンプファイヤー、温泉、プールと色々な学校と元気いっぱい交流し、新しい友だちもつくりました。天候不順でしたが、雨はなんとか免れて、夏休みのいい思い出をふやしました。



今後の研修会の予定

府養研研修部 テーマ別研修会

12月25日(木)午後2時～ 八尾市文化会館プリズムホール
(近鉄八尾駅下車すぐ)

行動にさまざまな問題を示す子の理解と援助 Q & A

分科会に別れて、専門の先生方から具体的な助言をいただきます。多数ご参加ください。

(参加申込み、詳細は10月ご案内送付の予定)

- | | | |
|-----|------|-----------------------|
| 分科会 | テーマ1 | ADHDといわれる子どもたちの理解と対応 |
| | テーマ2 | LDといわれる子どもたちの理解と対応 |
| | テーマ3 | 行動障害を示す子どもたちの理解と対応 |
| | テーマ4 | 自閉傾向を示す子どもたちの理解と対応 |
| | テーマ5 | 肢体不自由の子どもたちの理解と対応 |
| | テーマ6 | 性に関する課題のある子どもたちの理解と対応 |

ICT活用プロジェクト研究会今年度第3回研究会

11月28日(金)15:00～17:15

枚方市立第二中学校(予定)

内容 「マウス改造講座」

講師 大峠貴弘氏(大阪府立茨木養護学校)(予定)

2003年9月8日

大阪府養護教育研究会 会員様
大阪養護教育コンピュータ研究会 会員様

大阪府養護教育研究会
会長 本郷 くみ
府養研 ICT 活用プロジェクト
事務局 田村 真一
大阪養護教育コンピュータ研究会
会長 宮西 重久

養護教育におけるコンピュータ活用の実際

大阪府養護教育研究会研究部 ICT 活用プロジェクトと大阪養護教育コンピュータ研究会との共同開催で、ICT 活用に関する研究会を下記要領で開催いたします。

今回は、大阪府立茨木養護学校のご協力を得て、授業参観を含めた研究会を通して、養護教育におけるコンピュータ活用の実際について考えていきたいと思ひます、

ご多忙の時期とは存じますが、多数ご参加いただき、障害のある子どもたちの教育に活かさせていただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

記

- テーマ 養護教育におけるコンピュータ活用の実際
日時 2003年10月21日(火) 14:00~17:00
会場 大阪府立茨木養護学校会議室・コンピュータ室
〒567-0067 大阪府茨木市西福井4丁目5-5 tel 072-643-6951
学校 HP <http://www.osaka-c.ed.jp/ibaraki-y/>
講師 山本 一壽氏 (大阪府立茨木養護学校)
内容 14:00~14:15 茨木養護学校でのコンピュータ活用の概略
14:15~14:50 授業見学(国語の授業 重複障害)
15:00~17:00 取り組み・ソフト・入力機器などの説明
連絡先 田村 真一(高槻市立養護学校)
Tel 072・681-7910 e-mail tamura@fb3.so-net.ne.jp
備考 授業時間中の教室への出入りはできる限りお控えください
アクセスは学校 HP を参考に公共交通機関のご利用をお願いします。
なお、JR 茨木駅からの所要時間は、約 20 分です